

韓国人日本語学習者を対象とした日本語動詞の指導

——「見る」を中心に——

裴 徳 姫

1. 序

文の中核をなすのは命題の部分である。文構造がほぼ同じと言える日本語と韓国語の場合、次のように表わすことができる。

$$S = P (NP_1 \cdot NP_2 \cdot NP_3 + V) + M$$

(S : 文 P : 命題 NP : 名詞句 V : 動詞 M : モダリティ)

ここで、NPすなわち名詞は、日本語と韓国語において意味用法の差異はさほど顕著ではない。しかし、Vすなわち動詞の場合は、各言語間にその意味用法において顕著な差異が認められる。動詞の多義語の教育にかかわる問題について、阿部(1988)では次のように述べられている。

make は早い機会に日本の英語教育に導入されるものの、「make=つくる」といういわゆる一対一対応 (one to one correspondence) として教えられる傾向が強い。そのため、中・上級レベルになって make が数多くの意味をもち、またその用法も多種多様に異なる事実と直面すると、最初の段階で理解したmakeすなわち「make=つくる」とは別個に学習することが多く、それがmake についてより体系的な洞察を妨げているようである。

韓国人が日本語を学習する場合も、これと同じことが言える。韓国人を対象とする日本語教育現場では、「両言語の類似性」というのが教授者と学習者の日本語を見る基本的な固定観念になっていて、日本語の動詞は活用だけ覚えれば十分であるように扱われている。また、中・上級段階になっても文法事項の下位要素としての扱っだけに注意が向けられてしまい、動詞各々の意味領域まではあまり扱われていない。結果として学習者は、辞書だけを頼りにして動詞の学習を進めているわけである。これが韓国人日本語学習者の韓国語的な表現の日本語文になる原因あるいは理由にもなるのである。

2. 動詞の比較対照研究の必要性

本論文では、韓国人を対象とした日本語教育でまず重点を置かなければならない部分として動

詞を扱いたい。日本語教育で動詞をどう扱えばより効果的な日本語教育のレベルに進展し得るかを考える。そこで、動詞の個別的な比較対照研究の必要性の根拠として次の4項をあげたい。

- (1)辞書における叙述は羅列的であるので、それは単文次元の配列にすぎないものである。
- (2)動詞の比較対照研究においては、意味用法及び統辞、さらにはモダリティの部分までに至る個別的な比較対照研究が必要であり、また、それと関連して、動詞にかかわる文法事項の適切な教授法の研究が必要であると判断される。例えば、「一ている」を教える場合、学習者はすべての動詞にこれの接続が可能のように思ってしまうたり、あるいは、「一ている」の母国語の直訳した表現とその用法がまったく同じであるように取ってしまうたりして、誤用文が生じることになるのである。
- (3)外国語教育では、母国語との比較対照の立場からの指導を離れてはその両言語の言葉の役割の習得は十分にできないと言える。特に成人を対象とした外国語教育において、また、韓国語と日本語のように類似点の多い言語の場合において、そのことは、なおいっそう強調されなければならない。
- (4)現在のような文法事項の下位要素としての動詞の扱い方以外に、動詞の個別的な語彙用法の下位要素としての文法事項提示も必要であると見られる。

3. 「見る」と「pota」

人間は外から物事を受け入れるのに感覚器官を利用する。人間の感覚を表わす言葉の中で、特に視覚表現に関係するのは「見る」だけである。これにほぼ対応する韓国語表現としては「pota」がある。しかし、この言葉は視覚だけでなく、広い感覚領域とかかわりがあるようである。これについて、韓国語の「pota」の意味を、申(1991)は次のように記述している。

感覚領域を通じてある対象を認知する。すなわち、言語使用者が認知する感覚領域に対象が入ることを意味する。したがって、「pota」が指示する動作が起こる前に言語使用者が認知する感覚領域になかった対象が「pota」が指示する動作が起こってから言語使用者が認知する感覚領域の中に入る。

以上のように、「pota」が代表的な感覚動詞に属するものであることを述べ、その担う多様な機能について述べている。本論文では、感覚動詞の「見る」を研究対象の中心にすえる。「見る」は、日本語教育において学習の初期に扱われる動詞でもある。これにかかわる両言語での動詞の意味用法を比較対照的に考察し、日本語教育でのそれらの応用面について検討していくことにする。

「見る」と「pota」の関連語の統辞的用法を比べると、次の〈表1〉のようにまとめられる。

〈表1〉

見える	自動詞	poita	被動詞
見せる	他動詞	poita	使動詞
見られる	受け身	*	*
見させる	使役	pokey hata	統語的使動
見させられる	使役受け身	*	*

〈表1〉のように、両言語において各々の扱いに差が見られるが、これは言語表現に対する認識が異なっていることを裏付けるものである。

4. 日本語文と韓国語文の収集分析

例文は次の雑誌から日本語文264文、韓国語文381文を収集し、分析した。

日本語：Newsweek 日本語版 1992.4.30/5.7, 5.28, 6.4

韓国語：Newsweek 韓国語版 1992.5.6, 5.13

時事ジャーナル 韓国語版 1992.4.30, 5.14

収集した例文からの分析結果は、次の〈表2〉のようである。

〈表2〉

	見 る	pota	見せる	見える	見られる	poita	合計
実質動詞	72 (32.3%)	127 (42.1%)	19	28	18	66	330
複合動詞	64 (33.1%)	0	0	0	0	0	64
補助動詞	26 (13.4%)	153 (50.8%)	5	1	0	14	199
名 詞	22 (11.3%)	9 (2.9%)	0	0	0	0	31
他	9 (4.6%)	12 (3.9%)	0	0	0	0	21
合 計	193	301	24	29	18	80	645

韓国語の学校文法には補助動詞だけで複合動詞という用語はないので、二つ以上の動詞の結合語を全部補助動詞あつかいすることにした。しかし、これら補助動詞の中には、辞書での分類方法が二つ以上の動詞の結合語なのに一つの語として扱われている語もあった。それは次の〈表3〉で示したような割合で現われている。すなわち、153語 (50.8%) の中、辞書に一つの語として載せられているのは61語 (20.2%) であって、その他は92語 (30.6%) を示している。これは複合動詞という用語はないが、日本語の複合動詞のような機能を持つ語はあるということである。

〈表3〉

辞書での分類	→ 自動詞・他動詞扱い	19動詞	61例	(20.2%)
他	→ 補助動詞	50動詞	92例	(30.6%)

これを上の日本語「見る」の複合動詞と補助動詞の分布と合わせてみると、次の〈表4〉のようになる。

〈表4〉

日本語			韓国語	
複合動詞	27動詞	64例文(33.1%)	19動詞	61例文(20.2%)
補助動詞	23動詞	26例文(13.4%)		

ここで日本語「見る」は、複合動詞としての用法が補助動詞としての用法より発達しているのに対し、韓国語の場合は補助動詞の用法が発達していることが分かる。日本語の複合動詞の数が単純動詞の数を上回るということについては、森田(1985/1987)にも述べられている。上の割合は韓国人日本語学習者の日本語作文に深い関係のあることが想像できる。次の節では、韓国人日本語学習者の日本語作文における「見る」の複合動詞と補助動詞としての用法の割合を見る。

5. 日本語学習者の「見る」の使い方の検討

5.1. 韓国人日本語学習者の「見る」をめぐる日本語文の状況

大学で日本語教育を専攻している大学3年生32名の作文の中で、「見る」が使われている文を収集し、分析してみた。32名の中、25名の文の中から「見る」の用いられた58例文が得られた。これらの分布を見ると次の〈表5〉のようである。

〈表5〉

	見 る	見 せる	見 える	見られる	合 計
実質動詞	16(27.5%)	2	6	1	25
複合動詞	7(12.0%)	0	0	0	7
補助動詞	25(43.1%)	1	0	0	26
合 計	48	3	6	1	58

韓国人日本語学習者の日本語文はどうしても韓国語の表現に従っての日本語の作文になっているとしか解釈できない状況が把握できる。

5.2. 韓国人日本語学習者の日本語文における「見る」の意味範囲の検討

韓国人日本語学習者の日本語文の中で、「見る」が用いられている文だけを収集し、それを分析してみた。

- (1)「見る」が実質動詞として用いられている文の名詞は、視覚に関係したものがほとんどである。
- (2)「見る」の補助動詞の用法の文では、「考える、聞き見る、かえり見る」の誤用が見られ、他は正しい使い方をしている。
- (3)「見る」の複合動詞は、六つの動詞が使われ、「見慣れる、見回す、見つける」は正しい使い方を、「見初める、見回る、見とどける」は誤りである。
- (4)「見えないようにたくさんの手紙を交換して」「見せてくれる」「希望を広げてみせては」などの韓国語的な日本語文表現が多い。

6. 「見る」と「pota」の意味用法

6.1. 実質動詞としての意味用法

「見る」と「pota」の意味用法を比較対照してみると次の〈表6〉のようにまとめられる。ここではその代表的な例を一つずつだけをあげる。

〈表6〉

	日本語	韓国語	日本語の例文	韓国語の例文
ア.	見る	pota	映画を見る	yenghoalul pota
イ.	見る	他の動詞	夢を見る	kkwumul kkwuta
ウ.	他の動詞	pota	留守番をする	cipul pota

両言語の「見る・pota」の意味の幅、使われ方が違うことがわかり、さらに両言語の話者の言語表現の認識にも相違点があることが分かる。日本語教育現場におけるこれらの言葉の意味の幅に対する教育の必要性も感じる。

6.2. 補助動詞と複合動詞としての意味用法

「見る」と「pota」の補助動詞・複合動詞の用法は次の〈表7〉のようにまとめられる。

〈表7〉

意味の関係	韓国語	日本語	例 文
ア. $V_1 + V_2$	$V_1 + e/a + V_2$ $V_1 + ko + V_2$	$V_1 + テ + V_2$ $V_1 + テ + V_2$	宿に戻ってみると、ちょうど団体客がバスを降りてくるところだった。 (...tolaoa poni,...) アメリカと中南米の関係を置いてみると‘介入’は選択の問題ではない。 (...twuko pomyen...)
イ. $V_1 + v_2$	$V_1 + e/a + v_2$	$V_1 + テ + v_2$	こたつに手を入れてみて、寒いとあわてて引っ込めた。(...sonul nehe poko...)
ウ. $v_1 + V_2$	$v_1 + e/a + V_2$	V_3	これをながめていた空港当局者を面喰らわせた。(...ikesul chetapoko issten...)
エ. $v_1 + v_2$	$v_1 + e/a + v_2$	$V_1 + V_2$	これから頑張りますので見守ってください。(...cikhyepoa cwuseyo.)

(V:本来の意味を保っていることを, v:本来の意味が無くなっていることを表わす。V1, v1, V2, v2は各々先行・後行動詞を表わす。V3は他の動詞になっていることを表わす)

次は韓国語では「e/a pota」が用いられているが、日本語では「テみる」が用いられない文がある。それを五つに分けてまとめてみると次の〈表8〉のようである。

〈表8〉

意 味	例 文
ア. 意志の謙讓表現	iman ka pokyesssupnita. (お先に帰らせていただきます)
イ. 仮定の意味	kunyeseki kwuenlyekman capapola. nekautn kes... (あいつが権力さえ握ればさ、君のような…)
ウ. 譲歩構文	icye palami pulepoassca mwusun soyongi isse. (いまになって風がふいても何の役にも立たない)
エ. 穏やかな命令表現	ppalli tusalamui haynpokul wuihay, kitomunul oi epoa. (早くあの二人の幸福のために、お祈りしてあげてよ)
オ. 経験の意味	nato celmessul ttay yenayhay poassso. (私も若い時、恋愛したことがあるんですよ)

7. 教材の「見る」

ここでは大学で使われている教材の中、韓国人によって編集され、また韓国で出版されている、五つの教材を選び、「見る」の扱われ方をまとめた。

得られたのは、「見る」に先行する名詞が具体名詞ばかりで、視覚的な「見る」の用法しか扱われていないことである。これだけを見ても日本語学習者が「見る」の視覚的な意味用法しか作文できないことの原因が分かる。

補助動詞としての「見る」の用法では、すべての文での用法が「試し」の意味用法だけであった。それも「テみましょう」の文型が一番多かった。また複合動詞の場合は、多くて三つの複合動詞を扱っており、中には一つも現れてない教材もあった。このようにもっとも基礎的な「見る」[pota]の用法だけが扱われ、これは正確な言語表現を駆使する上でマイナスの影響を及ぼすことになるのは当然である。

8. 「見る」の教授法に関する一案

8.1. 韓国人を対象とした日本語教授法開発の必要性

学習者の対象によって、特に韓国人を対象としている日本語教育においてはそれに合った適切な日本語教授法が必要であろう。日本語と韓国語は語順を同じくしているし、漢字という表意文字を共通に持っていることから、韓国人学習者は感覚的に勉強しやすい言語、あるいは馴染みやすい言語という印象を持つ。このようなことが、かえって日本語学習の上に障害として働いてしまうことになる。

一般に、日本語教育は、文法事項中心になっている。また、語彙事項を文法事項の下位に位置づけている。学習する言語と類似の言語を母語としている学習者を対象とした日本語教育では、両言語の細かい分析研究を必要とするし、また、その分析を生かした教育方法を必要とする。

韓国人を対象とした日本語教育に関して研究しようとしている研究者が大変少ない。また、語レベルの両言語の比較対照研究および教授法の研究は皆無であると言っていいほどあまり問題視されていないのが現状である。

8.2. 韓国人を対象とした日本語教育における「見る」の扱い

「見る」の語自体が持っている機能の範囲を「視覚的意味、感覚的意味、派生語、関連語、補助動詞、複合動詞、受け身用法、使役用法、使役受け身用法、アスペクト用法など」とした場合、これらのニーズによった教育現場で扱う手順(8.3.)を考えなければならないと思われる。

「見る」一つにしても、その意味用法の面で大変いろいろな機能を持っている。これは、内容の指導や内容の作成に当たって文法事項の下位要素として十分な検討も経ずに選ばれた語彙レベルとしてだけでなく、一つの語の語彙的関連事項も踏まえた上で、一つ一つ丁寧に扱わなければならないと思われる。また、教授者は個別的な教授法だけではなく、「語」レベルでの一つのまとま

りを学習者に提示して置かなければ、いつまで経ってもばらばらの状態としての意味用法しか学習者の頭には残らず、言語の応用力に乏しくなるおそれが多い。本論文で日本語と韓国語の「見る」と「pota」の意味用法についての比較対照を通して解明されたように、両言語には、それぞれ共通している部分と異なっている部分があり、言語によって細かく分化している部分にも差がある。このように動詞一つ一つについての比較対照研究を丁寧に行った上で、その研究を生かした、参考書の編集、両言語の比較対照的立場からの教材の編纂、及び教授者の学習者に対する教授法の開発などがさらに必要とされてくるであろう。

8.3. 動詞の扱いの手順

〈表9〉

	日本語	韓国語
共通点	A. B. C. D. E. …	a. b. c. d. e. …
差異点	A'. B'. C'. D'. E'. …	x. y. z. …
	X. Y. Z. …	a'. b'. c'. …

A. B. …… A'. B'. …… : 日本語の動詞の用法

a. b. …… a'. b'. …… : 韓国語の動詞の用法

X. Y. Z. … : a'. b'. c'. の動詞の日本語での用法

x. y. z. … : A'. B'. C'. の動詞の韓国語での用法

テキストや学習指導案の範囲が定められているとした場合、全体をいくつかのグループに分けて（全体50課のテキストであれば五つあるいは六つ、…に分けられる）動詞ごとにその用法のレベルを分けてそれを適切に分配して利用することが最適である。〈表9〉に即してみたとき、例えば、「A. B'.」「B. A'. X.」「C. D. Z.」「E. C'. Y.」…のように学習者のレベルやニーズによって分配すればよいのである。もちろんすべての学習しなければならない動詞をこのような区分けをするのは容易ではないだろうが、文法事項の説明に必要であるからといって安易な動詞選びを行うことは、学習者の動詞の習得のために有益ではない。

注

- (1) ア.『現代日本語（上）』（1985/1994）梅田博之・韓美脚 法文社
 イ.『大学日本語』（1986）元英浩・金東秀 三元出版社
 ウ.『大学日本語』（1988/1991）祥明女子大学校日本語教材編纂委員会
 祥明女子大学校出版部
 エ.『新編 日本語』（1990）李賢起 蛍雪出版社
 オ.『大学日本語』（1990/1991）朴正義 蛍雪出版社

参考文献

- 阿部 一 (1988) 「日本人英語学習Ⅱ者に見る語彙学習の実体と問題点」
『独協大学外国語教育研究』7号
- 石井正彦 (1983) 「現代語複合動詞の語構造分析における一観点」『日本語学』8月
- 生越直樹 (1991) 「朝鮮語「-e pota, -ko pota」と日本語「一て見る」」『日本語学』12月
- 寺村秀夫 (1983) 『日本語のシンタクスと意味1』くろしお出版
- 長嶋善郎 (1976) 「複合動詞の構造」『日本語講座4 日本語の語彙と表現』大修館書店
- 成田徹男 (1981) 「補助動詞と本動詞—「みる」「みせる」を例に—」
『島田勇雄先生古希記念 ことばの論文集』明治書院
- 水谷静夫 (1983) 『朝倉日本語新講座 文法と意味1』朝倉書店
- 森田良行 (1971) 『動作の起こり方を表わす語について—「てしまう, ておく, てみる, た」の用法』『講座日本語教育』7 早稲田大学語学教育研究所
- (1978) 「日本語の複合動詞について」『講座 日本語教育』14 早稲田大学語学教育研究所
- (1985) 『誤用文の分析と研究—日本語学への提言』明治書院
- 吉川武時 (1975) 「「てみる」の意味とその実現する条件」
『東京外国語大学附属日本語学校論集』2
- 金 kihyek (1987) 「国語補助動詞研究」延世大学校大学院博士学位論文
- 金 碍得 (1986) 「toupulissi ui hyengtai tongeloncek chawuen」『mal 11』延世大学校 韓国語
学堂
- 孫 syemotol (1993) 「国語補助用言に対する研究」漢陽大学大学院博士学位論文
- 申 玄淑 (1991) 「感覚動詞 {pota} の意味分析」『金英培先生 回甲記念論叢』慶雲出版社